

「知」の集積と活用 の場 産学官連携協議会 会員の皆様へ

～ 協議会事務局から会員に対する当初支援内容について～

平成28年4月21日

「知」の集積と活用
の場
産学官連携協議会 事務局

株式会社 リベルタス・コンサルティング

LIBERTAS
● ● ● ●

【趣旨・目的】 ※協議会規約(案) 第2条

- 近年、我が国の農林水産・食品産業は、本格的に知識産業化・情報産業化しつつあり、国民が真に豊かさを実感できる社会を構築するため、新しい産業モデルを創出し、「知」として世界に貢献できる時代が到来している。「知」の集積と活用の場は、このような変化を踏まえ、異なる分野の新しい発想や技術を外部から取り込み、これまでにないスピード感をもって、革新的な商品や事業等を生み出し、他者との協創を通じて、加速度的な市場形成を促進するオープンイノベーションの場を提供するものである。
- このような認識に立ち、共に行動するという基本的な考え方を踏まえつつ、民間企業、生産者、大学、研究機関、非営利法人等の多様な関係者が集まり、「知」の集積と活用の場産学官連携協議会を設置する。

【事業】 ※同 第3条

- (1) 「知」の集積と活用の場の普及啓発に関する事業
- (2) 「知」の集積と活用における産学官の連携の推進に関する事業
- (3) 「知」の集積と活用における研究開発の推進に関する事業
- (4) その他協議会が定める事業

当初支援内容①：協議会活動PR、会員向け情報提供、各種相談対応

【協議会活動PR】

- 協議会が主催・支援するセミナー、ワークショップ等の実施内容や、「研究開発プラットフォーム」の活動状況など、日々の協議会活動を通じて得られた「知」に関する情報を継続的に発信します。

【会員向け情報提供】

- 会員活動の主体的推進を支援するため、蓄積された知＝ナレッジ、人＝タレント、資金＝支援プログラムなどに関する情報をデータベース化し、会員間で共有します。農林水産省はじめ各省庁・自治体の支援メニューや、金融機関の紹介なども視野に入れていきます。

【各種相談対応】

- 会員からのご相談への窓口(電話、ウェブサイト)を設置します。特に、会員となって日が浅い新規会員からの活動に関する諸相談にきめ細かく対応します。
- 新たに開設する協議会ウェブサイトで、オンラインでの相談フォームを用意し、様々な相談を受け付けます。簡易なご質問に関してはメール等でご回答し、別途「FAQ(よくあるご質問)」として取りまとめ、会員間で共有します。

上記の機能を備えた協議会の公式ウェブサイト(後述)を開設し、会員に広くご利用いただくことにより、協議会活動の円滑化を図ります。

【「研究開発プラットフォーム」とは】

- 会員が組織、分野、地域等の垣根を超えて連携し、新たな商品化・事業化を目指して共同して研究開発に取り組むオープンな活動母体を「研究開発プラットフォーム」と呼びます。

【届出方法】 ⇒ 本年5月9(月)より登録受付を開始します。

- [6月1日の協議会ウェブサイト開設まで] 協議会の専用メールアドレス(下記)にご連絡いただければ、届出用のフォームをお送りしますので、必要事項をご記入の上、ご返送ください。 <メールアドレス: maff-platform@libertas.co.jp>
- [6月1日の協議会ウェブサイト開設以降] 同ウェブサイト上で届け出を行うことができます。(URL等の詳細は後日、ご案内します。)

【届出時の登録事項(主なもの)】

- 研究開発プラットフォームの目的、名称
- 参画する「プロデューサー人材」、管理運営機関・担当者
- 主な活動(事業)内容
- 活動規約・ルール、関係者間の役割分担
- 研究開発プラットフォーム設立の経緯 など

当初支援内容③:「プロデューサー人材」のリスト及び関連情報の提供

【「プロデューサー人材」とは】

- 前述の「研究開発プラットフォーム」において、技術シーズ・開発ニーズの発掘から、関係者のマッチング、利害関係の調整、ビジネスモデルを踏まえた知財戦略や研究開発計画の作成、研究開発費の調達、事業の進捗管理・マネジメント等を行う人材またはチームを「プロデューサー人材」と呼びます。

【「プロデューサー人材」リスト及び関連情報の提供】

- 新たに開設する協議会ウェブサイト「プロデューサー人材」リストを掲載し、会員が閲覧できるようにします。(但し、平成27年度に農林水産省が委託事業でヒアリングを行った人材のリストについては、本年4月22日(金)15時頃から農林水産省HPで公表します。URL「<http://www.s.affrc.go.jp/docs/knowledge/knowledge/index.htm>」)
- リスト及び関連情報のイメージは下記のとおりです。

氏名:〇川〇作



所属・役職

[現在の業務概要]

- ▼ 〇〇クラスター全体総括
- ▼ 地域イノベーション推進拠点と知クラ発展プロジェクト

[プロデューサー的業務経験事例]

- ▼ 〇〇プロジェクト 事業プロモーター
- ▼ 〇〇次世代社会システム創出拠点 プロジェクトディレクター

協議会専用ウェブサイトの開設について

- 現在、「知」の集積と活用場の構築に関するウェブサイトは農林水産省農林水産技術会議事務局（平成27年度検討会の結果など）及び筑波産学連携支援センターに開設しています。
- 平成28年度においては、協議会事務局業務を（株）リベルタス・コンサルティングが担うことに伴い、本年6月1日に協議会専用ウェブサイトをクラウドサービスで開設する予定です。

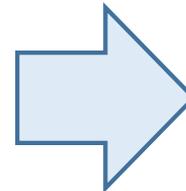
【本年5月31日まで】

【本年6月1日以降】

○農林水産省農林水産技術会議事務局
<http://www.s.affrc.go.jp/docs/knowledge/knowledge/index.htm>



○農林水産省農林水産技術会議事務局
 筑波産学連携支援センター
<http://sto.affrc.go.jp/cooperation/kyogikai>



専用ウェブサイトを新たに開設
 現在、（株）リベルタス・コンサルティング
 が開設工事中



【開設時期】

- 本年6月1日より運用開始 ⇒ 5月下旬開催のポスターセッションでアナウンス

【運用開始時点での提供メニュー】

- 会員名簿、会員受付
- プラットフォーム受付
- 問い合わせ(会員相談)
- プロデューサー人材リスト
- What's New
- メルマガ登録・送信機能(隔週で配信予定)

【機能拡張(予定)】

- 会員各社ホームページとの連携
- SNSの公開・SNSとの連携
- 各種申請登録機能の拡充(操作性の向上)
- 啓発事業掲載画面のサービスレベル向上(操作性の向上)等

イベント告知①：今年度も「プロデューサー希望者によるプレゼンとポスターセッション」を開催します

【開催目的】

- 「知」の集積と活用場の産学官連携協議会の会員が自発的に新たな技術やアイデア、現場課題を発信・交流する場を設けることにより、一定の課題の下に協働して研究開発の戦略づくりを行う「研究開発プラットフォーム」の形成を促進する。

【日時・会場・開催規模】

- 日時：平成28年5月26日（木）（13:00～18:00開催の予定）
- 場所：東京都またはその近隣県（東京都内での開催が最有力）
- 出展数：150ブース程度（予定）／来場者数：500人程度（想定）

【受付期間・申込み先】

- 受付期間：平成28年4月27日（水）～5月18日（水）
- 申込み先：協議会事務局＝（株）リベルタス・コンサルティング

【企画概要（予定）】

- プロデューサー希望者によるミニプレゼン
- ポスター掲示と資料等の展示・配布
 - …「会員活動」「プロデューサー人材」「研究開発プラットフォーム」の3区分
- 研究開発プラットフォーム（準備中含む）の活動に係るミニセッション
- 会場内自由交流スペースでの連携協議（ファシリテーターによるサポートあり）
- 事前予約制のマッチング提案会

[昨年度ポスターセッションの様様]

- ◆ 日時：平成28年3月7日（月）
13:00～18:00
- ◆ 場所：東京海洋大学（越中島）
八十五周年記念会館
- ◆ 参加者数：363名
※出展者と一般来場者を合わせた人数。



イベント告知②：セミナーとワークショップを全国各地で開催します（本年6月から）

【セミナー】

- 目的・・・協議会会員の参加の下、研究開発プラットフォーム形成につながる知見やテーマ、戦略的方向性を、オープンな意見交換を通じ模索する。
- 形態・・・討議テーマに関心を有する会員が一堂に会し、有識者からの活動報告や問題提起に触発される形で相互に意見交換を行う。

【ワークショップ】

- 目的・・・セミナー等から導出したテーマ・方向性をベースに、より具体的かつ実践的な論点に基づき、事業創出を志向する会員の交流を図るとともに、研究開発プラットフォーム形成への流れを作る。
- 形態・・・研究開発プラットフォームへの参画・貢献の主体的意思を有する会員が、テーマ内容あるいは活動進展度別に区分された少人数グループで討議する。

【テーマ設定】

- 昨年度から継続の6テーマを含め会員の要望・ニーズに応じ設定。セミナー等は20回程度開催予定。地域開催を見越し、地域の実態や強みに即したテーマも設定。
- ポスターセッション会場やHPで、会員を対象とした「希望テーマ調査」(アンケート)を実施する予定。

[昨年度セミナー、ワークショップの様相]



← セミナー

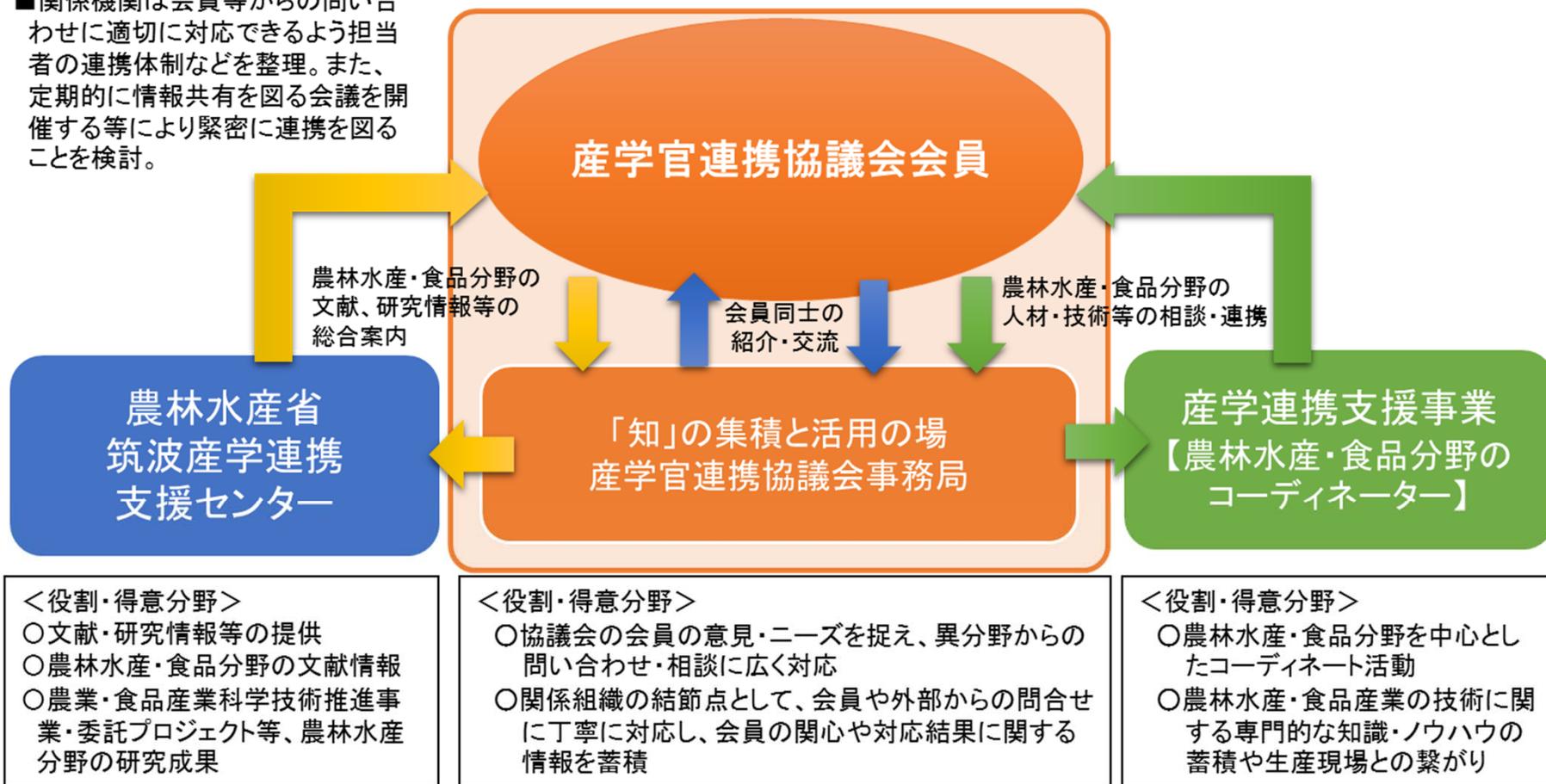
ワークショップ →



【参考】「知」の集積と活用に関する会員サポートの対応等について（イメージ案）

- 「知」の集積と活用には、多様な会員からの要望や相談、研究成果の情報などが集まることが予想され、これを的確にサポートする機能が重要。
- 会員等からの要望・問い合わせ等に関する対応をするには「農林水産・食品分野」、「異分野」の両方に関する専門的な知識や関係機関との幅広いネットワークが必要だが、現時点では、それらを全て兼ね備えた組織や人材はなく、当面は、関係機関が有機的に連携しながら、会員活動のサポートを行うことが必要。

■ 関係機関は会員等からの問い合わせに適切に対応できるよう担当者の連携体制などを整理。また、定期的に情報共有を図る会議を開催する等により緊密に連携を図ることを検討。



「知」の集積と活用場の構築に向けた検討会とりまとめ「平成28年度からの「知」の集積と活用場の構築に向けた展開方向（抜粋）」